

令和7年度 小樽市立朝里中学校 学力向上改善プラン

I 生徒の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

【国語科】

学年	定着目標	評価
1年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。	-0.5
2年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。	-0.1
3年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.3を超える。	+0.3

・国語科では、全学年で数値目標を達成することができた。語彙力を高め、各学年に応じた必要な言語能力を養うため、家庭学習の取り組み方を継続的に指導していくことが必要となる。

【数学科】

学年	定着目標	評価
1年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-1.0以内とする。	-0.5
2年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.6以内とする。	-0.1
3年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.5を超える。	+3.6

・数学科では、全学年で数値目標を達成できた。3年生は受験生ということもあり意識が高い。1・2年生の学習意欲を高めることが今後の課題となるだろう。

【学習・生活習慣（家庭学習等）】

学年	定着目標	評価
1年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を10%以上とする。	9.6%
2年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を10%以上とする。	7.6%
3年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を40%以上とする。	41.3%

・第1, 2学年は定着目標に達することはできなかった。学校の授業以外での学習習慣の定着に向けた手立てを講ずる必要がある。第3学年は定着目標に達することができた。受験期を迎え、主体的に学習する習慣が形成されたと考えられる。

②全国学力・学習状況調査結果（教科）：第3学年対象

・国語

分類	区分	平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.4	59.2
	情報の扱い方にに関する事項	58.2	59.6
	我が国の言語文化に関する事項	84.7	75.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	61.6	58.8
	書くこと	67.1	65.3
	読むこと	47.6	47.9

・数学

分類	区分	平均正答率 (%)	
		本校	全国
学習指導要領の領域	数と式	53.4	51.1
	図形	43.5	40.3
	関数	65.0	60.7
	データの活用	69.1	55.5

・国語科では、言語文化の領域で全国平均+9.1%と大きく上回った。情報の扱い方、読むことの領域に若干課題が見られる。
・数学科では、全4領域で全国平均を上回った。特に、データの領域は+13.6%であり、本校生徒の強みとして分析できる。

③標準学力調査：第2学年対象

国語（領域）		目標値	本校	全国
言葉の特徴や使い方にに関する事項		70.6	61.3	71.3
情報の扱い方にに関する事項		62.5	69.4	67.8
我が国の言語文化に関する事項		85.0	80.6	88.7
話すこと・聞くこと		56.7	51.9	54.8
書くこと		58.8	56.6	62.5
読むこと		59.2	60.6	63.7
数学（領域）		目標値	本校	全国
数と式		61.4	53.7	58.9
図形		58.3	57.6	58.6
関数		47.5	43.3	45.6
データの活用		53.3	38.9	49.9

・国語科では、情報の扱い方以外は全て全国平均を下回る結果となった。特に言葉の特徴や使い方の領域に課題が見られる。
・数学科では、全領域で全国平均を下回る結果となった。単元別に見ると、データ領域に苦手意識があることがわかる。

④標準学力調査及び全国学力・学習状況調査結果の経年変化

（全国平均を100とした場合）

【国語】

入学年度	標準学力調査	全国学力・学習状況調査
令和4年度	95.1	103.3
令和5年度	90.6	

【数学】

入学年度	標準学力調査	全国学力・学習状況調査
令和4年度	114.6	110.5
令和5年度	90.9	

⑤その他検査（確認テスト、単元テスト、定期テスト等）

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第1学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	1学期末	2学期末	全3回の差の平均
国語	-0.5	-0.6	-0.5	-0.5
数学	-0.4	-0.7	-0.5	-0.5

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第2学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	1学期末	2学期末	全3回の差の平均
国語	0.0	-0.2	-0.1	-0.1
数学	0.6	0.1	-0.5	0.1

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第3学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	1学期末	2学期末	全3回の差の平均
国語	0.3	0.3	0.4	0.3
数学	3.4	3.1	4.4	3.6

・国語科では、ほぼ全道平均に近いが、第1学年に少し課題が見られる。文章を読むために必要な言語能力を養いたい。
・数学科では、全道平均に迫り、超える勢いがあるが、第1学年は若干の課題が残る。既習事項の定着を手厚く行いたい。

⑤⑥全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）、家庭生活及び学習の状況等
・令和6年12月実施 生徒アンケート等の結果

質問項目	学年	結果
私は学校に楽しく登校している	1年	96.4%
	2年	93.9%
	3年	98.7%
友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている	1年	95.2%
	2年	93.9%
	3年	100.0%
毎日家庭学習を90分以上している	1年	9.6%
	2年	7.6%
	3年	41.3%
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（4時間以上）	3年	16.7%

・アンケートの結果から、生徒の心理的安全性が十分に確保されているため、友達と話し合う活動に積極的に取り組むことができています。
・第1, 2学年の家庭学習時間は不十分である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.8以内とする。
2年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。
3年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.1以内とする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-1.0以内とする。
2年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。
3年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.1を超える。

<学習・生活習慣（家庭学習等）> 生徒アンケートにより確認

学年	定着目標
1年	・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を40%以上とする。
2年	・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を50%以上とする。
3年	・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を60%以上とする。

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各種調査等の分析結果から見えてきた、朝里中学校区の共通課題である、「問題を正確に読み取る力（読解力）」、「自分の考えを適切に相手に伝える力（表現力）」を育む場面を、全教科の学習場面に意図的に設定し、生徒の変容を図る。
- ②放課後学習会を通年で実施し、個別指導の充実を図る。また、長期休業中にも学習会を計画し、基礎学力の確実な定着を図る。

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!!」に基づいた授業を展開する。基礎となる生徒の心理的安全性を確保した上で、子どもが主体となる場面を設定し、授業の終末場面では子ども自身が学びを振り返る時間を確保する。
- ②国語科では、教材の読み取りに終始することのないよう、自分自身が何をどこから読み取り、どう感じたかを話したり書いたりする場面を意図的に設定していく。生徒が間違いを気にせず、表現することに慣れていけるような授業づくりを目指す。
- ③数学科では、「間違ってもいいんだ」という心理的安全性を確保した上で、5つのSTEPのI評価規準の明確化、Ⅲ子ども主体の活動の位置づけ、の2つを重点項目とし、日常の授業づくりに臨み、教科部会の中で日々改善を図っていく。

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①放課後学習会通信を発行し、生徒が自身の学習習慣や生活習慣を見直すきっかけとなる情報を提供する。合わせて、「おたるスマート7」の啓発にも努める。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R7年 4月	・令和6年度学力向上改善プランの提示 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・放課後学習会の実施（通年） ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第2学年）
5月	・小中一貫教育協議会（全国学力・学習状況調査の分析結果の交流）
6月	・全学年定期テストⅠ ・保護者、生徒アンケート①の実施及び分析 ・教職員自己評価アンケート①の実施及び分析
7月	○標準学力調査結果分析 ・第1回小中合同研修会 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施
8月	・夏休み学習会の実施 ○R6全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・学力テストA（第3学年） ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・学力テストB（第3学年）、3学年定期テストⅡ ・地域公開日
11月	・学力テストC（第3学年）、1, 2学年定期テストⅡ ・第2回小中合同研修会 ・公開授業研究会
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・保護者、生徒アンケート②の実施及び分析 ・教職員自己評価アンケート②の実施及び分析
R8年 1月	・冬休み学習会の実施 ・3学年定期テストⅢ
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・1, 2学年定期テストⅢ
3月	・第3回小中合同研修会 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各種調査等の結果を分析し、評価する。
- ②放課後学習会及び長期休業中の学習会への生徒参加数から評価する。

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①校内研修の取組である授業交流やミニ研修等の取組を通して、授業改善の進捗状況を確認し、評価する。
- ②各種調査等の結果を分析し、評価する。
- ③各種調査等の結果を分析し、評価する。

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①年2回実施する生徒アンケートから、生徒の変容を確認し、評価する。